

情報連絡員総括表（2023年3月）

— 静岡県中小企業団体中央会 —

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月のDI値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 主要三指標におけるDI値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の9項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

$$DI値 = [(好転組合数 - 悪化組合数) / 調査対象組合数] \times 100$$

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI値は基準値 ± 0.0 (=横ばい) で推移
※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告 （回答者数 59 名：回収率 98.3%）

○2023年3月のDI値は、前月との比較において、「収益状況」のみ悪化し、その他6指標が改善した。原材料や資材、エネルギー価格等の高騰により「収益状況」はマイナス34.5ポイントと厳しい状況が続く一方、受注や生産量、客足が戻りはじめ、取引先との交渉により価格転嫁も進んでいるとの声が増えてきた。

○「製造業」では、前月との比較において、「収益状況」「資金繰り」の2指標が横ばい、その他7指標が改善した。前月比で悪化した指標はなかったが、「収益状況」はマイナス40.0ポイント、「業界の景況」はマイナス33.3ポイントと厳しい状況は続いており、「販売価格」「雇用人員」を除く6指標が非製造業を下回っている。

水産食料品製造業からは、「取引先への値上げ交渉の結果、売上高は増加したが、それを超えるペースでインフラコストが上昇し収益状況は好転してこない」とコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「売上高」「業界の景況」を含む5指標が改善し、「収益状況」を含むその他3指標が悪化した。コロナ感染症の収束傾向に伴いヒトとモノの動きが活発化しつつあるものの、原材料や外注費の高騰、人材難等により先行きの不安感は解消されていない。

宿泊業からは、「観光関連業界は回復傾向にあり、ほぼコロナ前に戻りつつある状況となった。インバウンドも徐々に増加している」と今後に期待するコメントが寄せられた。

(DI値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2023年3月	-6.9	9.1	36.3	-8.6	-34.5	-25.9	-10.0	-12.1	-24.1
2023年2月	-11.9	11.4	33.9	-15.2	-30.5	-27.1	-16.7	-15.2	-28.8
増減	5.0 ↑	-2.3 ↑	2.4 ↑	6.6 ↑	-4.0 ↓	1.2 ↑	6.7 ↑	3.1 ↑	4.7 ↑

2.項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減		DI値	増減	
売上高	2023年3月	-13.3	3.3	ポイント	↑	0.0	6.9	ポイント	↑	-6.9	5.0	ポイント	↑
	2023年2月	-16.6				-6.9				-11.9			
在庫数量	2023年3月	16.7	-6.7	ポイント	↑	-7.1	7.2	ポイント	↓	9.1	-2.3	ポイント	↑
	2023年2月	23.4				-14.3				11.4			
販売価格	2023年3月	36.6	6.6	ポイント	↑	35.7	-2.3	ポイント	↓	36.3	2.4	ポイント	↑
	2023年2月	30.0				38.0				33.9			
取引条件	2023年3月	-13.3	10.1	ポイント	↑	-3.6	3.3	ポイント	↑	-8.6	6.6	ポイント	↑
	2023年2月	-23.4				-6.9				-15.2			
収益状況	2023年3月	-40.0	0.0	ポイント	-	-28.6	-7.9	ポイント	↓	-34.5	-4.0	ポイント	↓
	2023年2月	-40.0				-20.7				-30.5			
資金繰り	2023年3月	-36.7	0.0	ポイント	-	-14.3	3.0	ポイント	↑	-25.9	1.2	ポイント	↑
	2023年2月	-36.7				-17.3				-27.1			
設備操業度	2023年3月	-10.0	6.7	ポイント	↑					-10.0	6.7	ポイント	↑
	2023年2月	-16.7								-16.7			
雇用人員	2023年3月	-10.0	3.4	ポイント	↑	-14.3	2.9	ポイント	↑	-12.1	3.1	ポイント	↑
	2023年2月	-13.4				-17.2				-15.2			
業界の景況	2023年3月	-33.3	3.3	ポイント	↑	-14.3	6.4	ポイント	↑	-24.1	4.7	ポイント	↑
	2023年2月	-36.6				-20.7				-28.8			

今月の業種別回答件数

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況				
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化			
製造業	食料品	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1			
	繊維工業	1	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	1	1	1			
	木材・木製品	1	3	2	0	1	1	0	2	1	3	0	3	0	3	0	2	0	4			
	紙・紙加工品	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1			
	印刷	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0			
	窯業・土石製品	0	3	1	0	3	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0			
	鉄鋼・金属工業	1	2	0	1	0	1	0	1	0	2	0	2	0	2	1	0	0	3			
	一般機器	1	2	2	0	1	0	0	1	0	3	0	2	1	1	0	1	0	2			
	電気機器	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0			
	輸送用機器	2	1	3	0	1	0	1	1	2	1	0	1	2	0	1	1	2	1			
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
非製造業	卸売業	0	2	0	1	3	0	0	2	0	3	0	2					0	0	0	1	
	小売業	1	1	1	1	2	2	0	1	0	2	0	2					0	1	0	2	
	商店街	2	3	1	1	3	1	0	1	0	3	0	1					0	3	0	2	
	サービス業	2	0					1	0	0	0	2	1					1	0	0	2	0
	建設業	2	2					3	1	2	0	2	1					1	0	0	1	1
	運輸業	2	1	2	0	1	0	0	2	0	1	1	0					1	0	1	2	

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍も終息に向かっているようであり、春休みに入り人の動きも活発化し、観光・飲食関連での需要が上向いてきているように感じる。 ・取引先への値上げ交渉の結果、売上高は増加したが、それを超えるペースでインフラコストが上昇し収益状況は好転してこない。電気代かガス代のいずれかでも値下がりしなければ、いずれ息切れしてしまう懸念がある。
パン	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月からの輸入小麦の政府売り渡し価格は、消費者の負担軽減を図るため激変緩和措置として、政府が算定した前期比で13.1%の引き上げ見込を5.8%とし、上昇幅を抑制している。
織物業	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に受注が戻りつつあるものの、コロナ禍で激減した生産能力が回復できない産地の供給能力減、地元サプライチェーンの欠落で早急な改善が図れない状況である。
宗教用具	<ul style="list-style-type: none"> ・下請事業者の高齢化による廃業又は縮小にともなう生産の減少が著しくなってきた。ここ2か月間の商品の動きも鈍化傾向にあり、先の見えない状況である。
製材業、木製品	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の需要に係る持ち家の着工数が落ちており、製材工場の稼働が抑えられている。経営的に厳しい状況。
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ・資材の高騰、それに伴う価格転嫁が進んでいない。(中部) ・コロナの影響で低調だった売上は、前年より増加しているもののコロナ前には届かない。すべての資材が値上がりしているため利益率が下がっており、多少の売上増加では手放しで喜ぶことができない。資材値上げに対して価格転嫁を進めているが、同業者間では織列な受注の取合いが続いている。観光関連の需要の戻りから、設備の稼働状況は好転しているが、一時的なものと考えている。(東部)
骨材・石工品等	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が前年より大幅に落込み、収益が厳しくなっている事業所がある。また、売上が伸びないため、在庫は増加傾向。
金属製品	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料・エネルギー高により収益状況が悪化している。 ・電気・ガス代の高騰が尾をひいている。
生産用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> 燃料費等の価格上昇、賃金の増加など先行き不透明な問題があり、仕事量は増えてきてはいるが、まだまだ利益率の上昇は見込めない。 ・景気減速の懸念が現実味を帯び、設備投資は様子見の雰囲気があり、当面は修繕等小口受注に終始しそう。 ・大手企業の大幅な賃上げ報道がある中、中小は定期昇給が精一杯であり、人の移動が懸念される。
電気機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料価格高騰に対応した価格見直しは進んでいる。電気料金など費用の価格反映も交渉中。 ・年度末の在庫調整により大型冷蔵庫の生産は昨年比ではマイナスとなった。 ・家庭用エアコンは例年並みの生産となったが、急拡大した昨年同月比ではマイナスとなった。 ・業務用エアコンはおおむね順調で横ばいであった。
輸送用機械器具	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体不足による計画変更リスクは継続しており、先々の見通しは不透明だが、前年に比べれば生産量は増加し回復傾向にある。しかしながら、人の流動が激しくなっており、人手の確保が共通の課題となっている。また、直近では賃上げへの対応に頭を悩ませている。

非製造業

セメント卸売業	<p>・5か月連続で前年同月実績を下回る。通期も9.3%減と4期連続減少、需要回復の兆しが見えない状況にある。</p>
鮮魚小売業	<p>・前月同様、売上は前年度を上回ったものの、原材料等の高騰により収益状況は依然として厳しかった。また、高齢化や後継者不在による廃業も数件あった。組合員企業の人材難が深刻化しており今後の業界景況が非常に不安である。</p>
各種商品小売業	<p>・コロナ禍で一度途絶えた消費動向は今後も回復しない。行き過ぎた感染症対策の弊害が長期にわたり商店街を苦しめている。</p> <p>・3月16日に30回目となる「逸品カタログ」を発行し、県中部地域26万世帯の静岡新聞に折り込みをした。昨年度開発したエコバッグミニの新品を新たに作成したところ大変好評で、取扱店はお客様で賑わった。25・26日に「はなはな呉服町2023」を開催し、来街者は増加していると感じた。コロナの影響で4年ぶりの開催となる「呉服町こどもゼミな～る」のカタログも完成し、市内の小学校などに配布した。4月1日より申し込みを受け付ける。</p> <p>・昨年の10月頃から売上は増えてきているが、客数が増えていない。ちょうどその頃より市が発行したクーポンや2月に実施したペイペイのキャンペーンが消費喚起につながり、客単価を上げた一つの要因と考えられる。</p>
宿泊業	<p>・コロナウイルス感染症の収束傾向と全国旅行支援の効果で、宿泊施設をはじめ観光関連業界は回復傾向にあり、ほぼコロナ前の数字に戻つつある状況となった。インバウンドも徐々に増加している。今後、FIT（個人旅行）はもとより東南アジアを中心としたインセンティブツアー等、海外からの団体ツアーの増加を期待する。</p>
総合工事業	<p>・年度末工事が終了したが、材料費・運賃の高騰と職人不足による外注費の値上げにより元請業者の利益率が下がっている。新年度工事の見積書も提出しているが、建築費の値上げにより新規の契約には至らない状況である。</p> <p>・県内の動きはあまり良くない状況。県外首都圏に関しては大型案件が動いているが、全体的に当初の予定より遅れ気味ようだ。物件用途としては介護施設関係が目立つ。建設関連の物価は、4月から値上げの話が出ており、値下げの要素がなく、仕入れ材の価格高騰は止まらないと思われる。</p>
職別工事業	<p>・全体的に大型工事も終わりに差し掛かり、通年なら閑散期に入るところではあるものの、まだまだ中小工事の下支えがあり、人手不足感も解消されない要因から、忙しい状況が続いている。価格上昇については、一部ゼネコンの圧力感も否めないものの、全体的には理解が進んでいる印象。ただ、中部圏においては、少々仕事が薄く、先行きに不透明感がある。</p>
道路貨物運送業	<p>・3月は年度末であるため荷物情報、車両情報とも増加傾向で、それに伴い運賃も上昇傾向であった。ただ、月末にかけては荷物が減少した。また、新型コロナウイルスの沈静化に伴い、法人からの引越の荷物情報も増加しており、こちらも運賃が上昇している。2024年問題が業界では喫緊の課題であるが、現状、組合員により対応に相違がある。</p> <p>・2024年問題が報道に取り上げられ、大手企業ほど運賃交渉などに前向きになってきている。逆に、二次・三次などの下請け企業は運賃の値上げを先延ばしたり、拒否する傾向にある。(取引先が製造単価を上げてくれないとこちらも上げられないという説明)</p> <p>・車両維持コストが高止まりして運送原価割れ(赤字)している。</p> <p>・相変わらずトラックを発注しても納車までに約1年かかるため、先の運賃交渉と2024年問題に関連して運賃値上げしてくれる業者にシフトしていく傾向にある。</p>
道路旅客運送業	<p>・昨年はコロナ感染症の再拡大により旅客需要が落ち込んだため、単月だけを比較すれば好転したように思われるが、運送収入の年間累計を見るとコロナ前との比較ではマイナス27.6%と厳しい経営状況が続いている。新年度を迎えて人の動きが出てくることを期待するところだが、一方で、燃料費やメンテナンス部品などランニングコストは上昇したまま高止まりになっており、さらにドライバーの人材不足など経営環境は依然として厳しい。地方創生臨時交付金等による支援を切望する。</p>

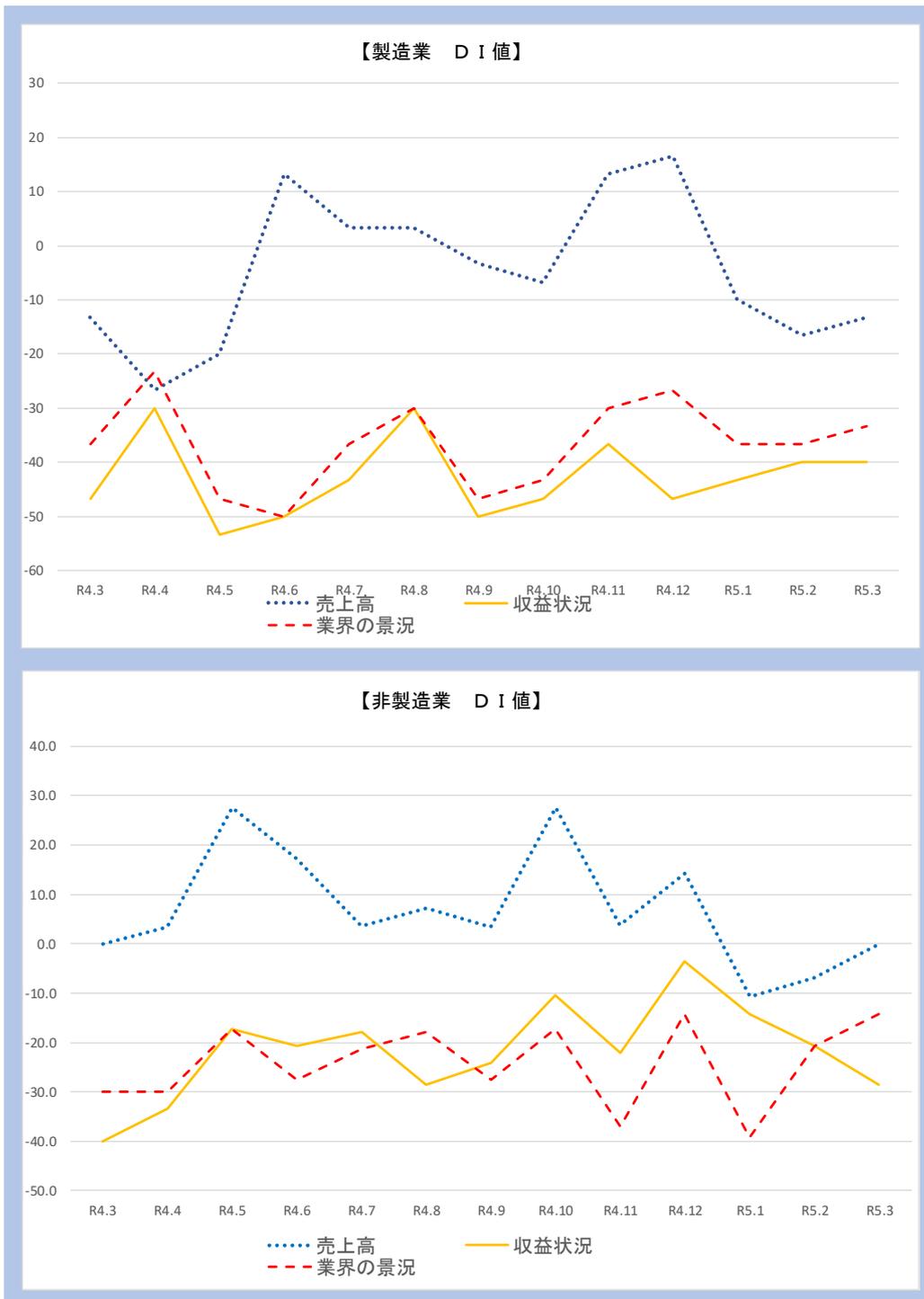
4. 主要三指標における DI 値の推移

■ 2022年3月期～2023年3月期までの推移

全体	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
売上高	-6.6	-11.7	3.4	15.3	3.5	5.2	0.0	10.2	8.8	15.5	-10.3	-11.9	-6.9
収益状況	-43.3	-31.7	-35.6	-35.5	-31.0	-29.3	-37.2	-28.9	-29.9	-25.9	-29.3	-30.5	-34.5
業界の景況	-33.4	-26.7	-32.2	-39.0	-29.3	-24.1	-37.3	-30.5	-33.4	-20.7	-38.0	-28.8	-24.1

製造業	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
売上高	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0	-16.6	-13.3
収益状況	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0
業界の景況	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3

非製造業	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
売上高	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7	-6.9	0.0
収益状況	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6
業界の景況	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3



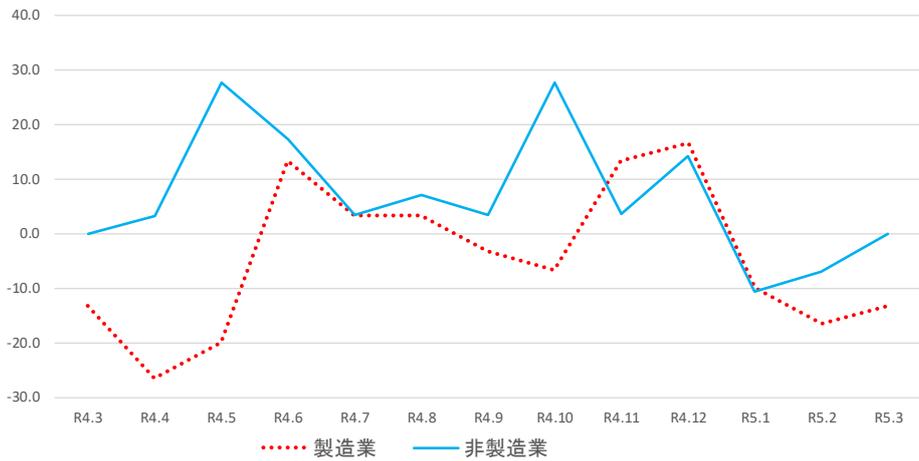
■ 2022年3月期～2023年3月期までの推移

売上高	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
製造業	-13.3	-26.6	-20.0	13.3	3.3	3.3	-3.3	-6.7	13.3	16.6	-10.0	-16.6	-13.3
非製造業	0.0	3.3	27.6	17.3	3.5	7.1	3.4	27.6	3.7	14.3	-10.7	-6.9	0.0

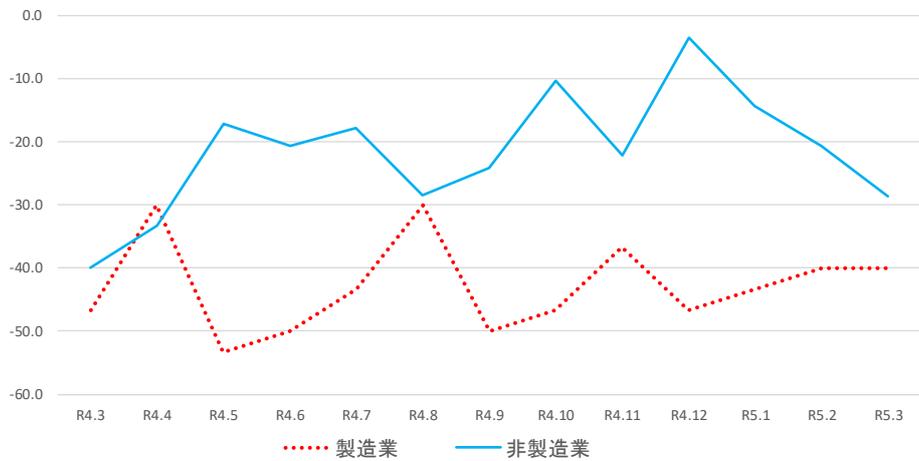
収益状況	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
製造業	-46.7	-30.0	-53.4	-50.0	-43.3	-30.0	-50.0	-46.7	-36.7	-46.7	-43.3	-40.0	-40.0
非製造業	-40.0	-33.3	-17.2	-20.7	-17.8	-28.5	-24.2	-10.4	-22.2	-3.6	-14.3	-20.7	-28.6

業界の景況	R4.3	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
製造業	-36.7	-23.3	-46.7	-50.0	-36.6	-30.0	-46.7	-43.3	-30.0	-26.7	-36.7	-36.6	-33.3
非製造業	-30.0	-30.0	-17.2	-27.6	-21.4	-17.8	-27.6	-17.2	-37.0	-14.2	-39.3	-20.7	-14.3

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値】

